

文化財学習会

ふるさと探訪

テーマ 坂出の町並みを歩く

講師 坂出市職員

平成28年6月26日（日）

共催 高松市歴史民俗協会
高松市文化財保護協会
高松市教育委員会

1 坂出人工土地（『香川県大百科事典』四国新聞社出版委員会編集 参照）



坂出人工土地（坂出市民ホール上の庭園）

坂出市の「人工土地」は、市街地まで塩田であった明治から大正初期に、その周辺にできた住宅街が、市街の発展とともに市街の中央に取り残され老朽化していたものを再開発、より良い住宅環境をつくろうと考えられたもので、旧市街地の現況も十分考慮して計画された。計画区域が市街地中心部の商店街にあることから、表側にある商店の建物と、改良しようとする住宅の建物相互間の均衡も考え、市街地全体に有機的なつながりを持ち、将来の都市文化を発生させる核として、さらに都市環境づくりや土地の有効利用の拠点と考えられた。事

業は、坂出市京町二丁目の計画区域の八〇パーセント全体に鉄筋コンクリート製の人工地盤一万一二七四平方メートルを形成。地盤の上に改良住宅一四二戸のほか、集会

所、緑地、児童遊園地、広場、道路を造り、地盤の下には、商店街、駐車場、市民ホール、公共道路、歩道、通路を造り、立体的に都市機能を発揮できるように整備改良したものである。

2 坂出市指定有形文化財 阪出墾田之碑

『坂出市文化財便覧』坂出市教育委員会編集発行 参照)

一八二九年、久米通賢くめつうけんによって完成された阪出墾田は、総面積二三一町余（塩田及び附属地一一五町余り、畑町一一六町

余り）に及ぶ大事業であった。高松藩

まつだいらよりひろ

主、松平頼恕公はこの業績を讃え、旧

地と墾田地の境で、墾田の東西中央の場所である天満社境内に石碑を建立して顕彰したのがこの阪出墾田之碑である。製作は江戸で行われ、文は藩儒中名文家として知られた岡内棟おかうちていに命じ、書は楷書で日本一と称された加賀藩の



阪出墾田之碑

河三亥（市川米庵）に特に依頼し、彫刻は江戸の名工といわれた（ひろせぐんかく）広瀬群鶴・群亀親子を選んで彫らせている。碑石は奥州塩竈に近い雄勝石（黒色硬質粘板岩）で、表面を研磨しケズリ手法による薬研彫りで、一八二九年一月江戸から海路運ばれて来た。「民賊物語」に記されている。また、坂出墾田完成の記念碑として藩主の特別な思いが推察され、坂出發展の起点としての意義を持ち、また江戸期を代表する碑石として貴重である。碑は花崗岩の台石の上に建っており、一九九一年には、石碑の保存のために覆い屋が建立されている。

3 両景橋公園（『香川県大百科事典』四国新聞社出版委員会編集 参照）

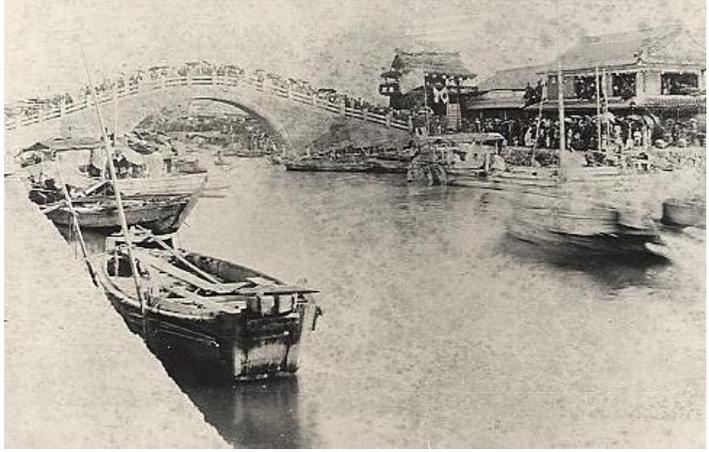
一八二九年久米通賢が築造した坂出塩田の東・西大浜を区切る（たつのぼり）豎登運河に架かっていた橋。もとは木造橋であったが、一八九二年久米通賢の子孫（くめよへい）久米与平が設計施行しアーチ形の石橋となった。長さ三五メートル、幅三・六メートル、高さ七・六メートル、美しい曲線を描き、橋上からは瀬戸内海と飯野山が見えるところから「主の心は両景橋よ海と山との二心」と坂出小唄に歌われた。太鼓橋とも呼ばれ親しまれた名橋である。一九四六年運河拡張のため撤去された。

出の住民有志は通賢の死後五年経った一八四六年に、宇多津の西光寺にお願いして庵

久米通賢は一八四一年に亡くなった。墓は東かがわ市馬宿の生家近くに^{うまやど}あるが、坂

4 西光寺支坊（久米通賢墓所）

（『通賢翁と坂出』坂出商工会議所編集発行 参照）



1892年（明治25年）の両景橋
坂出市立大橋記念図書館 所蔵



両景橋公園の石碑と両景橋旧親柱

を建て、久米通賢はじめ墾田関係者の位碑を祀った。そして明治になって墾田の捨石に通賢の名を刻んで墓とした。

5 地神社、地神社井戸（『通賢翁と坂出』坂出商工会議所編集発行 参照）

埋め立て前の海岸線近くには墾田の守り神として2つの神社が建てられている。その一つが寿町二丁目の地神社である。通賢が造った西新開（畑）の守護神で、地神社の由来によると、西新開が完成したのを記念して高松藩主頼恕公が塩田堤防の捨石を台座にして天照大神や土の神である埴安媛命はにやすひめのみことなどを祀ったとしている。



地神社



地神社井戸

6 坂出市指定有形文化財 坂出市郷土資料館

〔坂出市文化財便覧〕坂出市教育委員会編集発行（参照）

現在、坂出市郷土資料館として開館しているこの建物が、以前は坂出中学校であったことは、未だ多くの人の知るところである。

元来は一九一九年に郡立綾歌商業学校が県立に昇格した際に建設されたもので、途中に火災に遭いながらも翌年に完成した建物である。木造二階建ての寄棟瓦葺で南北約一〇メートル、東西約二三メートルの規模を持ち、中央にサイレンを置く小さな塔様のものが造付けている。土台は花崗岩の全面加工仕上げで、正面中央の階段も花崗岩製となっている。壁はシコロ壁で、

窓は格子の上下引き上げ窓とするなど大正建築のモダンな要素を取り入れており、大工は横津町の宮大工藪下亀吉、石工はその子の藪下竹次郎の手になるものである。内部の間取りはほぼそのままであるが、壁材や天井部などは改修されている。外観や部



坂出市郷土資料館



鎌田共済会 郷土博物館

材は当初のまま保存されて、大正初期の建築様式を良くとどめており現在では坂出市内の学校建築として最古の建造物となっている。また、この地が綾北地方の教育振興の発祥の地でもあることから教育振興の記念すべき建物としても評価される。

7 鎌田共済会 郷土博物館 (『坂出市文化財便覧』坂出市教育委員会編集発行参照)

現在は、公益財団法人鎌田共済会の郷土博物館となっているこの建物は一九二二年に建築されたもので、坂出の実業家鎌田勝太郎氏かまだかつたろうが、一九一八年に育英奨学と社会教育を目的に設立した財団法人鎌田共済会の図書館であった。香川県の技師である富士精一氏の監督で、竹中工務店の設計施工になる鉄筋コンクリート造りの建物である。外壁にみられる半円形の窓や壁面の石造風の目地切り仕上げ、また二階のパラペツト部分の波うった曲面に施された半円形、半球状の繰り返し装飾に特徴がある。屋上部の展望

室も含めると三階建ての鉄筋コンクリート建造物で、わが国初期の財団法人の建造物で鉄筋コンクリート造図書館建築として貴重であることから、登録文化財となった。平成に入つての駅前整備に伴い、図書館の南に位置していた郷土博物館の建物が取り壊されたことから、内部の貴重な資料を図書館へと移し、新たに郷土博物館として開館している。

8 坂出市指定名勝 香風園（坂出市ホームページ参照）

こうふうえん
香風園は、一九〇八年から一九一〇年にかけて坂出市の旧家の別邸として築庭された。

時代も移り一九五五年に坂出市が買受け、広く市民に開放されるようになった。その後、老朽化とともに一九八九年着工の鉄道高架事業により公園の一部が側道として整備されたことをきっかけに坂出駅周辺整備主要プロジェクトの一環として、一九九九年から二カ年をかけて築庭当時の名園に復元、整備された。

この香風園は、江戸時代に多く造られた大名庭園と同じ



香風園

様式の池泉回遊式ちせんかいゆうしきの日本庭園と多目的に利用できる芝生広場を中心とした洋風庭園が造られていて、和と洋、両方の文化を楽しむことができる。

この日本庭園は、明治中期・後期に県下においても各地に築庭されたが、ほぼ原形を維持して現在残っているのは非常に珍しく、数多く植栽された木々とともに園路や灯籠、橋などが設けられ、園内を巡りながら情緒あふれる景色を鑑賞することができる。

6月26日（日）坂出からの復路

	（坂出駅）		（高松駅）
◆JR 予讃線（各停）	11:55 発	→	12:22 着
◆JR 快速サポート南風リレー号	12:13 発	→	12:32 着

（※快速サポート南風リレー号は端岡・高松のみ停車します。）



次回のふるさと探訪は…

テ ー マ 郷東の史跡を訪ねる（予定）

と き 平成28年9月25日（日）

9:30～12:00頃

集合場所 乾船入公園

（馬場病院前バス停をおりて西へ徒歩3分）

講 師 川崎 正視さん（高松市文化財保護協会事務局次長）

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」9月15日号に開催案内を掲載しますので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課（TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

★次回の交通案内★

◆ことでんバス（イオン高松線下り）

（瓦町） （高松築港） （高松駅） （馬場病院前）

8:55 → 9:03 → 9:05 → 9:15

「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、
意義のある探訪としましょう。



- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、
道路の端を一行で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気をつけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。